



むかしむかし 日本の海のむこうに 元という国があつてな。それはそれは強い国だったそう。その国が海を渡って日本に攻めて来た時のことじゃ。

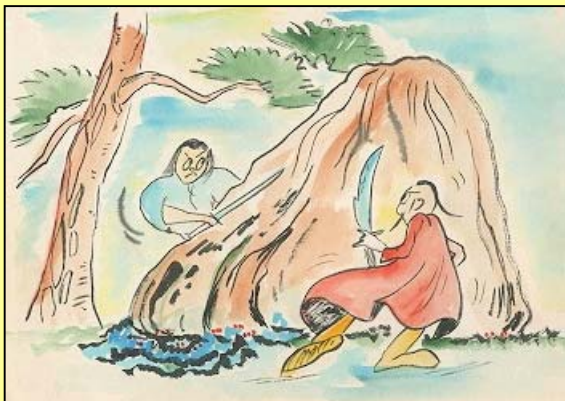
敦賀湾に入り 松原に上陸しようと 船を松原にむけると 日本の大軍が旗を上げ 迎えうつようすに あわてたそう。

松原の松の木にむらがる白さぎを大軍と見間違えての こんな所へ上陸したんでは 皆殺しにされると思ひ 反対にかじを取ったそう。

東浦の江良の九頭龍谷(くろんたん)という谷から現われた九つの頭を持つ龍に 行手をはばまれて 五幡に上陸したそう。

「いついろのはた」
五幡の民話

1/2



待ちかまえた大将竹内の刀禰(すくね)が攻めまくり、敵の大将鉄輪(てつりん)を追っかけ岩のぐるりをまわること数回、



これはかなわんと 鉄輪の軍勢はかえる山に逃げ込み そこで首をはねられたそう。首をはねられた所を「首取り」と呼んで、村人はそこへ行くのを恐しがったんじゃ。それからしばらくして

暗いよさり 首取り坂で火がもえているのを村人が見たそうだが 恐いので夜が明けてから見に行くとなー



火をもやしたあとに それは美しい旗が五本あり いつつのに輝いて立っていたそう。村人は村の宝じゃと言って やしろを建て「五幡大明神」と呼んで祭ったそう。それからは このあたりは五幡と呼ばれるようになった。



「いろいろのはた」
五幡の民話

2/2

